令和６年白浜町議会第２回定例会 会議録（第３号）

１．開　　会　令和 ６ 年 ６ 月 ２１ 日 白浜町議会第２回定例会を白浜町役場議場において ９ 時 ５９ 分 開会した。

１．開　　議　令和 ６ 年 ６ 月 ２１ 日 １０ 時 ００ 分

１．閉　　議　令和 ６ 年 ６ 月 ２１ 日 １１ 時 ２５ 分

１．散　　会　令和 ６ 年 ６ 月 ２１ 日 １１ 時 ２５ 分

１．議員定数　１２名

１．応招及び不応招議員の氏名
　第１日目のとおり

１．出席及び欠席議員の氏名
　出席議員 １２名 その議席番号及び氏名は、次のとおりである。

１番	廣畑	敏雄	２番	松田	剛治
３番	小森	一典	４番	溝口	耕太郎
５番	堅田	府利	６番	正木	秀男
７番	辻	成紀	８番	西尾	智朗
９番	水上	久美子	１０番	横畑	真治
１１番	長野	荘一	１２番	黒田	武士

　欠席議員　なし

１．職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名は、次のとおりである。

事務局長	泉　芳明	事務主任	鈴木　保典

１．地方自治法第１２１条の規定により、議場に出席した者の職氏名は、次のとおりである。

町長	大江　康弘	副町長	愛須　康徳
教育長	豊田　昭裕		
富田事務所長			
兼農林水産課長	古守　繁行	日置川事務所長	東　剛史
総務課長	玉置　康仁	税務課長	中尾　隆邦
民生課長	小川　敦司	住民保健課長	濱口　伊佐夫

生活環境課長	榎　本　　崇　広	観 光 課 長	新　田　　将　史
建 設 課 長	清　水　　寿　重	上下水道課長	山　口　　和　哉
地域防災課長	木　村　　晋	消　防　長	楠　川　　雄　平
教育委員会			
教 育 次 長	廣　畑　　康　雄	総務課副課長	小　川　　将　克

１．議事日程

日程第１　一般質問

１．会議に付した事件

日程第１

１．会議の経過

○議　　長

おはようございます。

ただいまの出席議員は１２名であります。地方自治法第１１３条の規定に基づき、定足数に達しておりますので、ただいまから白浜町議会令和６年第２回定例会３日目を開会します。

日程に入る前に事務局長から諸報告を行います。

番外　　事務局長　泉君

○番　　外（事務局長）

諸報告を行います。

本日の議事日程については、お手元に配布しています。

本日の一般質問は、１名を予定しています。

なお、本日で一般質問を終結したいと思いますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

以上で諸報告を終わります。

○議　　長

諸報告が終わりました。

ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

本日は、写真撮影を許可しております。

これより本日の会議を開きます。

（１）日程第１　一般質問

○議　　長

日程第１　一般質問を行います。

通告順に従い、質問を許可します。

通告順　５番、３番　小森君の一般質問を許可します。

小森君の質問は、一問一答方式です。通告質問時間は９０分です。

質問事項は、町長の政治姿勢と今後の町の展望についてであります。

町長の政治姿勢と今後の町の展望についての質問を許可します。

３番　　小森君（登壇）

○３　　番

ただいま溝口議長より、一般質問の許可をいただきまして、通告に従って一般質問を始めさせていただきます。私の一般質問は一問一答方式として質問いたします。

１番、町長の政治姿勢についてでございます。昨日、初日の一般質問では、同僚議員から、去る４月２８日に行われた白浜町長選挙において、激戦の中、新町長として初当選されましたことをまず初めに、心から敬意を表しお喜び申し上げます。町長から昨日もいろいろと、ご自身の政治姿勢についてお話を伺いましたけれども、私も重ねて、改めて今日は町長の政治姿勢について伺わせていただきます。

先月５月１３日の月曜日に、大江町長は初登庁されました。まだ１か月余りしか過ぎず、この定例会が最初の議会ということもあり、白浜町に山積している課題や問題一つ一つと向き合うお時間が少なかったことと存じますけれども、初日の所信表明において、町長は５つの「人を中心とした政策」ということを発信されました。これは恐らく大江町長が４５年という政治経験の中で、いろいろな経験の中で培われてきた、そういう人を中心とした政策であると存じます。

１つ目には「人に寄り添う白浜町に」、２つ目は「人の集まる白浜町に」、３つ目は「人を育てる白浜町に」、４つ目は「人や動物に優しい白浜町に」、そして何といってもこのふるさとを支えていただいている皆様の命や生活や財産を守る、５つ目、「人を守る白浜町に」という、そのような政策を選挙期間中から、そして先日の所信表明においてもはっきりと述べてこられました。その中で、この５つの政策について、これから始まるわけですけれども、この４年間で、具体的にどのような取組や方向性、そういうことを考えておられるだろうか、それはこれからの４年間の中で一つ一つ具現化していく、具体化していくことだと思うんですけれども、まず初めに町長にそのところを答弁していただきたいと願います。

○議　　長

小森君の質問に対する当局の答弁を求めます。

番　　外　　町長　大江君（登壇）

○番　　外（町　　長）

おはようございます。ただいま小森議員から私のこの４年間における町政を預かる基本姿勢についてお尋ねがございました。また、私が掲げた幾つかの選挙期間中を通じて申し上げてきた公約についてのタイムスケジュール、日程ということでご質問がありました。

昨日も、長野議員にもお答えをいたしたと思いますけれども、私の政治姿勢は一貫してこの４５年の自らの政治生活の中で自分が中心にして置いてきた気持ち、理念は、やはり現場主義ということであります。昨日も申し上げましたけれども、現場を知らなければ我々お互い政治家と呼ばれる者にとっては、次の段階には行けないと思います。しっかり現場を知る、しっかり困っている皆さんの声を聞くということが大事だという思いで、私自身は４５年やってきたつもりであります。その中でしっかり皆さんと正直に向き合っていくと、誠実に向

き合っていく。そして、何よりも真面目に向き合っていくということを私なりに振り返って、十分そのことができたのかどうかといいましたら、大変面映ゆいものがありますけれども、その気持ちは忘れずにやってきたつもりであります。

今、小森議員から私が掲げた、実は私のパンフレットを見てご質問いただいたかと思います。この中で、５つの人を中心にして私がお約束をさせていただいたことの中で、既に今タイムスケジュールを聞かれましたので申し上げますけれども、「人に寄り添う白浜町に」ということの中で、１つ目はやはり町民の皆さんに寄り添う町役場にしたい。もっと親しんでいただいて職員の皆さんが頑張っている姿も見ていただきたい。職員にはすみませんが、町長になる前には、町民の皆さんから、役場へ行ってもなかなか挨拶してくれない、なかなか役場へ行っても笑顔で答えてくれない、まあ、そうかなというふうに思いながら一月余り、こうして町長として役場に連日通わせていただきました。入ったところの住民保健課の皆さんというのは、絶えず住民の皆さんにいろんな証明を出したり忙しいですよね。なかなか挨拶をする時間もない。また用事のある各課へ行かれましても、それぞれ仕事をしていて、なかなか町民の皆さんが思われるような対応というのは、日々のそれぞれの職員の皆さんの生活の中で難しいんじゃないかと。そうは言いながらも、入ってきたときの役場のイメージというのは私は大事だと思います。ですから、寄り添う役場という中で、議員の皆さんのご理解もいただきながら、この７月１日から、玄関に受付の方を１人置きます。そしてあそこをもう少し来ていただいた皆さんに、いてもらいやすい空間にしてもらう。そういう中で今職員の皆さんにお願いをして、玄関の空間を変えていっていただいております。これは、もし７月１日から始めましたときには、町民の皆さんには、少しずつ理解をいただけるのではないかと思います。

そして次に、「人の集まる白浜町に」でありますけれども、今台湾からのチャーター便については交渉させていただいております。この議会が終わりましたら、大阪の領事館に行きまして、前回４年前は台湾から中華航空、そしてエバー航空のトップの方に来ていただきました。なぜ台湾だと言われる向きもあるかと思うんですけれども、私も外国とのお付き合いをしっかりやらせていただいてきたのが台湾の皆さんとでありますから、何とかここは台湾の皆さんのお力を借りてという、そんな思いで今、進めさせていただいております。私自身は、必ずこれは結果は出せるという自信を持たせていただいております。

次に、都市計画を見直して活力あるまちづくり、もう５０年近く白浜町は同じパイの中で我々は過ごしてきました。このパイの大きさが変わらない。大きさが変わらない中で、人口を増やせよ、あるいは活力を生めというのは、これはもう限界があります。私はもう今の白浜町は、もう限界を既に通り越している。このパイを大きくして何とか新しくここに投資の機会を、投資のチャンスを与えていく。来ていただいて、しっかりこの白浜町に根づいてもらうという、このことを我々がしない限り、人口が増えることもない、活力が出ることもない、底力がつくこともない。私はそういうふうに思って、今都市計画法の用途地域の見直しを事務局のほうでやらせていただいております。そして、工場の問題ですけれども、日置川地域に３０人規模の工場が来ていただくということが既に決まっております。小森議員もご承知かと思いますけれども、今、場所の選定をやらせていただいております。そしてそれに付随して病院かもしくは福祉施設を持ってくるということも、相手の先生のほうからも了解をいただいております。こういうことを一つ一つやっていけばまた、我々の町の景観という

か、風景が変わってくるというふうに思っております。

そして、３つ目の「人を守る白浜町に」ということでありますけれど、その中でも、国、県の協力を得ながら防災拠点にしていく、これは緒に就いたばかりでありますから、昨日廣畑議員からも質問もありましたけれども、県の調査結果を待って、その中で我々が当該の地元町として自治体としてどうしていくか。前回の新空港、今の現空港を造るときも、あらかたが白浜町に頑張っていただきました。ですから、やはり、我々はこれがもし進んでいけば、白浜町としてしっかりと向き合っていかなければいけないというふうに思っておりますけれども、これもこの１年調査結果がどうなっていくかということだと思います。

そして、災害対策人材の育成、訓練施設を設置するという、これも昨日申し上げましたけれども、東大グループの防災グループの皆さんから、椿地区に防災の訓練校をという要望をいただいております。しっかり、東大のグループの皆さんの知恵や知見を借りながら椿という地区を先方のほうから指定をして言ってきていただいたということを私は重く受け止めておりますので、これも進めていきたい。これは、我々の町としての受皿をしっかりつくれば、進んでいく話だというふうに思っておりますので、これもご理解いただきたいと思います。

そしの地域の治安向上に役立つて防犯灯、防犯カメラ設置でありますけれども、防犯カメラに関しましては、先日、白浜警察署のほうにお願いをしました。やはり警察というプロの目でどこにつけたらいいのか、どこに設置をしたらいいのかというのを見ていただいて、そして白浜警察署で決めていただいた設置場所に対して、我々がしっかりそこに防犯カメラをつけて、そしてまた防犯灯をつけていくということをやらせていただきたいと思います。

人を育てる白浜町の中で方向を決めさせていただいているのは、昨日も質問がありましたけれども、小中学校の給食費の無償化であります。これは知事が申されましたように大体１０月ぐらいに県も進むと思いますから、それに向き合ってやっていきたいというふうに思っております。

そして、「人にあるいは動物に優しい白浜町に」ということでありますけれども、日置川地域に行きますと、お年寄りの皆さんが非常に公共交通が少ないという中でオンデマンドのバス、地域バスの活用というものに少し時間的な面、予算の関係もありますけれどやはり本数も含めて不自由に感じておられます。私はそれぞれの日置川地域の区やあるいは富田地域の区長さんにお願いをして、どういう時間帯で行かせてもらったらいいのかということを、まず、地元で便利のいいそういう使い方や時間帯を教えていただいて、予算に限度はありますから、その中でまた運用の仕方も変えていきたいというふうに思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

そして、殺処分ゼロを目指す保護犬でありますけれども、これも私はもうぜひやらせていただきたいというふうに思っております。特に地域猫に関しても、地域の動物を愛する皆さん方が個々にやられておりますけれども、やはり限度がありますので、そういう動物に優しいという気持ちをしっかり町としても支えていきたいというふうに思っております。ご理解いただけたらと思います。

そしてドッグランの設置でありますけれど、白浜というこれだけの観光の地でドッグランが一つもないというのも、これも我々の地域の受皿としてどうかなと。そういう中で今場所も選定をしながら進めていきたいと思いますので、また議員の皆さん方のご理解もいただきたいと思っております。

今申し述べたことは、しっかりとやらせていただくスタートを切らせていただきました。全般のタイムスケジュールにつきましては一つ一つ大きな目標もありますから、ただ先ほど言いましたように、私は４年間という、もう４年間を切りましたけれども、限られた期間がありますから、その期間の中で、しっかりお約束したことを実行していきたいと思いますので、どうかご理解をいただきたいと思います。

○議　　長

３番　　小森君

○３　　番

今改めて町長から、５つの人を中心とした政策について述べていただきました。この後、そのことについてもさらに詳しく質問させていただきますけれども、町長はこの４５年間で現場主義ということを非常に強調されて大事にされてきております。もちろんこれはどの政治家にとっても大切なことであり、現場主義を通してその時々に感じること、また思わされること、また、改めて地域や町の政策にどのようにしていくかというのがもう本当に大事だと思うんですけれども、同時に、やはり町の現状ということも本当に大事ではないかと思わされます。

次の質問では、そういう町の現状の課題と問題について、質問させていただきます。ちょうど白浜町の町長選挙の期間中の４月２４日に、有識者でつくる民間組織の人口戦略会議、昨日も同僚の松田議員が触れておられましたけれども、報告がなされました。２０５０年までの約３０年間近くにわたって出産中心世代の女性が半数以下に減少し、将来的に消滅する可能性がある消滅可能性自治体というものが公表されました。これ非常にちょっと私にとってはショックといいましょうか、二十数年後はこういう未来が待っているのかなと思わされた次第です。公表によれば、県内には３０市町村の自治体があります。そのうち２３の市町村が消滅可能性自治体と位置づけられております。白浜町も残念ながらその１つの自治体として、特に白浜町では若年女性減少率が５２．３％と報告されております。２０２０年の数値では出産を中心とした女性が大体１，５００人ぐらいでしょうか、それが２０５０年にはちょうど７５３人、約半分近くに減ってしまうと。そのときの２０５０年の町の人口というのは今大体２万人切ったぐらいですけれども、２０５０年には１万２，８０７人という数値が示されています。当然白浜町もその消滅可能性自治体と位置づけられています。そして一方で、１００年後も持続可能性が高い自治体、これは若年女性減少率が２０％未満の数値ですけれども、全国で６５自治体しかないと報告されています。残念ながら和歌山県では、１００年後も持続可能性が高い自治体というのはゼロと記されています。本当に衝撃的な報告でありました。町長が先ほど述べられた５つの人を中心とした政策の中でも、特に１番、２番、３番、「人に寄り添う白浜町に」「人の集まる白浜町に」「人を育てる白浜町に」というテーマに大いに該当することではないでしょうか。こうした現状認識のもと、切実な課題といいましょうか、すぐにでも何らかの施策を打っていかなければならない。先ほど町長もいろいろな子育て支援策とかも考えておられると述べておられましたけれども、このような現状にして、町長はどのように未来といいましょうか、２０５０年に向けて受け止められておられるんでしょうか。そのことを答弁していただきますようにお願いいたします。

○議　　長

番外　　町長　大江君

○番　　外（町　　長）

ただいま人口減に関する中での将来の白浜町の在り方についてのご質問であったと思います。

かつて県会議員をさせていただきましたときに、あの当時の仮谷知事が、４５年前に県民を１０８万県民とよく言いました。その中で、知事が出された和歌山県の長期総合計画の中で１２０万都市を目指そうと。１２０万都市を目指して、和歌山県をいろんなそれぞれの部門の中で活性化していこうという計画を我々県議会に出されて、そして我々もいいことだということで、その計画が実は認められました。しかし、悲しいかな、今日、４５年経過して、今、和歌山県民は９０万人を切りました。ですから、ご存じだと思いますけれども、アルジェリア出身で今フランスに住んでいるジャック・アタリという政治評論家、思想家がおります。彼がいみじくも何と言われているか。人口推計、人口統計ほど当たらない調査はないということをある本に書いておられました。しかし、それは極論にいたしましても、やはり、どんどん今のこの状況の中で減っていっているということはもう、我々は数値を見て明らかであります。ですから、やはりそういう、今、小森議員がおっしゃられましたように、我々が消滅可能性自治体と。ただ１０年前は入っていなかったんです。２０１４年に白浜町は消滅可能性自治体に入っていなかったんです。じゃあ、１０年間何をされてきたのかということは、私は問いませんけれども、だけれど１０年前は我々は入っていなかった。しかし１０年たって２０２４年に、我々は非常に残念でありますけれども、そのグループの中に入れられた。小森議員が危惧されるように、これからどんどん人口も減っていく中でどうしたらいいんだろうか。

先日、真砂市長と約１時間半余り２人だけで話をしました。その中でお互いの意見が一致したことは、やはり田辺市から以南、新宮市までの中で１つの大きな自治体をつくっていこう。これはとても我々の生きている世代ではできないかも分からないけれども、そういうお互い道筋をつけていこうと、そういう１つの広さ、そして人口規模の中で、しっかり県と向き合い、しっかり国と向き合う、これは我々地方もその努力はしていかなければいけないというふうに思います。その中では、田辺市と白浜町でお互いが今日このような中で新しい広域のモデルができないかということの話合いをさせていただきました。そういうことを一つ一つこれからいろいろ田辺市長と詰めながら、また議員の皆さんの知見も借りながらやっていきたいと思います。

我々はもう今のこの現状の自治体のままでいいのかどうかということも短絡的に別に大きくなれば人口がすぐ増えるからいいんじゃないかということではなくて、大きな我々の力の出る、そういうまちづくりをまずしていかなければいけないという、やっぱりそういう努力も必要ではないのかなという思いの中で、そういう話に至ったわけであります。今、すぐにでも何らかの施策を打てということでありますけれども、すぐか遅きか分かりませんが、先ほど私が申し述べさせていただきましたように、我々の今のパイを広げれば、必ず来てくれます。白浜町という魅力に、我々のふるさとの持っているポテンシャルに魅力を感じて必ず来てくれます。しかし我々は今までそういう来てくれる人たちに対して投資のチャンスを与えていなかった。例えば新しいホテルが造りたい。だけれど、本当に一から造成をして新しいホテルができるような我々の受皿だったのか。今私が感じるのは、白浜町で新しいホテルができたといえば、潰れかかった、あるいはまた立ちいかなくなった経営者が外資に売って、

そしてきれいにして名前を変えたら白浜町では新しいホテルというふうになっているんです。それでは人口が増えません。例えば一から造成をして新しいホテルが建ったら、そのホテルの大きさなりに従業員の人が来てくれます。ですから、そういうことをやっぱり我々はこの５０年余り、ずっと目を向けずにきていた。

だからパイを大きくするということ。ここで私は、我々のまちの風景というのは、必ず変わってくると思います。やはり我々は何を信じるのか、この白浜町というのはいい町ですよ、白浜町というのはすごく来ていただいても皆さんにとっては投資をしていただいてもそれが十分生かせるまちですよということをしっかり対外的に宣伝していくということ、これは私は絶えずやっていきたい。議員の皆さんにも一緒にやっていっていただきたいというふうに思います。

ですから、妙薬は何かと言われれば、やはり私はまずここに住む子育て世代の若い皆さんを大事にしていきたいと思います。その中で、我々がどういう支援ができるのか。その１つでありますけれども、給食費の無償化に対して、少しでも希望を持っていただいたら、あるいは学校に行くことに対しての通学費も少しでもやっぱり我々が手助けをできたら、そういうことをやりながら、子供たちが育っていってもらえたらうれしいなと。

ですから、すぐにどうかと言われたら、私の至らぬ経験の中で努力不足もあると思いますけれども、なかなかすぐにということは難しいと思います。しかし、少し時間をいただきたい。先ほど申した都市計画が少し見直されれば、必ず私はそういう形の中で、我々にとってまた違った景色が見えてくるというふうに思いますので、ひとつご理解いただきたいと思います。

○議　　長

３番　　小森君

○３　　番

今、町長の答弁をいただきまして、ただ将来的にほかの自治体と合併して、それで少し人が増えたからいいというわけじゃなくて、白浜町もそうだし近隣の市町村も、その地域や町に力をつけないといけない。次の質問でも、若い世代により強固な基盤、基礎、土台づくりということについて申させていただきますけれども、やはりそういうところが、着々とこうやって積み重ねてくる中で、地域が、町が、そして紀南地域全体が本当の意味で力がついてくるということを申してくださいました。

町長は所信表明の中でも、日本という国は、首都圏を中心とした中央集権型行政が今も色濃く残っていると。こういう国家づくりというのは恐らく明治以降の近代国家が根づき始めてから１６０年余り、ずっと同じようなそういう中で歩んできたと思うんです。だけれど、その中でも残念ながら和歌山県は、高校を卒業すると進学や就職で地域から県外へ出てしまう。そういう時代がしばらく続きました。恐らく二、三年前までは本当に全国一、県外に進学や就職で流出していくという、そういう時代が続きました。その中で、町長は選挙の中でもそうですけれども、少子高齢化、人口減少が続き、これはもう日置川地域だけじゃなくて全町的にそういう傾向に直面していると。特に生産年齢人口の減少というのは、今働き方改革と同時に担い手不足といいましょうか、そういう労働人口が足りていないという状況も問題となっているところであります。

町長はいろいろと先ほどからも、工場の誘致や病院や施設の誘致等々、こういうことを申

されておりますけれども、やはり、町全体が１つになって将来を担ってくださる若い世代の皆さんをどのように育てていくか、そこが、本当に重要であると私は存じております。１８歳人口がますます減っていきますけれども、何とか町や地域で若い人が定住、定着化できるような施策、例えば大学の誘致や、今和歌山市でも誘致されている大学のサテライト学部、１つの学部が和歌山市に来ている大学が複数あります。そういうのが例えばこの白浜町に来ていただけるようになれば、それだけ若い学生に、この町に一定期間住んでいただけますし、その中で白浜町のすばらしいところに触れていただければ、恐らく卒業した後も白浜町や紀南地域の近隣の町に定住していくようなところがあるんじゃないか。

さらにはこの後、南紀白浜空港の２，５００メートル延長化に関連して質問いたしますけれども、サテライト学部と同時に、私は改めて航空大学校の再誘致なども含めた機関も、そういうのがまた白浜町に来ていただけるようになれば、より一層若い世代の強固な基盤、基礎、土台づくりとなり得ることではないだろうか、そのように思うわけですけれども、町長のお考えをよろしくお願いいたします。

○議　　長

番外　　町長　大江君

○番　　外（町　　長）

小森議員のご質問を聞いておりますと、本当にむべなるかなということで、若い人たちに、これから我々のふるさとを支えてくれるそういう世代を、どういうふうに新しくつくっていき支えていくのかという、そういう思いを聞かせていただきました。

今、それに関連されて、るるいろいろと申されましたけれども、最後に言われました航空大学の話ですが、実はこれは私は皆さんにおわびをしなければいけないとは実は思っておることがあります。私が２０００年に知事選挙に出ましたときに、あの当時の後に知事になられた木村知事、私が県議会で知事選挙に出る前に当時の西口勇知事が南紀白浜空港の横に航空学校を設置するということで、具体化が進んでおりました。その中で知事が突然病気で退任をされるということの中で、私も知事選挙に出るという中でその政策を継承させていただきました。そして、その航空学校に来たいという方にもお会いしました。そして、たられば でしたけれども、なったらしっかり進めていきますというような経過を、今話を聞いて思い起こしておりました。実は私の不徳で結果が出せなかった中で、木村知事さんがどういう思いだったのか分かりませんけれども、一夜のうちに計画をやめてしまった。あれからもう２４年です。県においても、白浜町においても、そういう誘致の話を県はしてこなかったと思うんですけれども、航空大学の誘致の話を私は小森議員から初めて聞かせていただきました。航空大学ではありませんけれども、実は、今はまだ詳しい名前も言えませんけれども、ある東京の大学の工学部の半導体部門の学科をこちらに持ってきたい、私もぜひお願いするということで今、水面下で話をさせていただいております。どこかということはご容赦をいただきたいと思いますけれども、なぜ半導体かといいましたら、ご存じのように、あの熊本県で今台湾はすごい半導体の工場を持っております。そういう台湾との関係の中で、やはり半導体というところに着目をしていただいて、学生たちがこの白浜町の自然豊かな中で学べないかという、これはお互いがそういう気持ちの中で、まだ結果は出ておりませんけれども、そういうことで今話を進めさせていただいております。

ですから、こういうことがもし形になって出ていけば、何度も言いますけれども、我々の

風景がしっかり変わってくると思います。ですから、できることを一つ一つしながら、何としてでもやはり若い人たちがここにとどまってもらう。ただ、私はとどまっていただくにしても、一度外の空気を見られるというチャンスもあれば、それを生かされたらいいんじゃないかと。外海を見てくる、外の景色を見てくる、経験をしてくる、そういう中で今度白浜町へ帰ってきてそういう経験や知見を生かしてもらって頑張っていただくという、こういうことも私は大事ではないかなと。いたずらに、ここにいる若い人たちをずっととどめておくということも、私はやっぱりいかがかなというふうに思っておるわけであります。ただ、帰ってくる。その場所をやっぱり我々がどういうふうにつくってあげるのかということは我々の責任であると思いますものですから、しっかり学んでいただいて、地元でその能力や経験を生かしてもらえる場所をこれからもつくっていきたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

もう１つ、実はこの中に入れさせていただいたｅスポーツを誘致するということをお約束させていただきました。今ｅスポーツを通信教育でやっておられるのが第一学院高等学校という通信教育専門の学校があります。この通信教育専門の第一学院高等学校と、ｅスポーツでつながっているのがゲーム機器のコナミであります。今白浜町でｅスポーツの聖地をつくれないかというお話もいただいております。ご存じのように、ｅスポーツというのはネットの世界ですから、別にここにおらなくてもいいんですけれども、しかし、何かここに若い人たちが、我々も協力をして学校を造って、ネットで、通信制のｅスポーツを学んでもらうという、そうすれば若い学生たちも来てもらえるわけですから、そういうことも今ご提案をいただていますので、こういうことを地道に一つ一つ私はやらせていただきたい。もちろん、議長をはじめ議員の皆さんのご理解がなければできないことでありますけれども、幾つかそういう投げかけをいただいておりますので、できるだけしっかり受け止めて、このまま我々のふるさとの将来になるためのことはやっていきたいなというふうに思っておりますので、またご理解をいただきたいと思います。

○議　　長

３番　　小森君

○３　　番

今も町長から答弁がありましたが、何点か南紀白浜空港の２，５００メートルの延長化について質問をさせていただきます。

昨日も町長から答弁がありましたように、２月の県議会定例会で岸本周平知事が、２，５００メートル延長化に向けて、令和６年度、今年度に調査費用を計上されたと。ですから、これから調査を進めていく中で、本当にそれが実現していくかどうかというのをまずは調査していこうと。ですから、何も始まったわけじゃないんですけれども、ただ町長は選挙期間中から、そうなれば庁舎内に空港延長対策室を設けると明言しておられました。もし、具体的なグランドデザインを和歌山県が示していくような形になれば、そのときはやはり白浜町としてもすぐに対応できる組織体制というのは、準備しておかなければいけないと思います。まだそれが進むって決まっているわけじゃないんですけれども、そのための準備として、白浜町としては、どのように職員配置や空港延長対策室の設置時期、それはもう和歌山県の方向次第ですけれども、今そのような構想を持っておられるか、町長から答弁を求めます。

○議　　長

番外　　町長　大江君

○番　　外（町　　長）

ありがとうございます。昨日もこの空港問題につきましては、それぞれのご質問がございました。実はその前に、岸本知事が、今年南紀白浜空港２，５００メートル化をおっしゃっていただいて、調査予算までつけていただいた思いというものが那辺にあるのかということを、昨日我々と同じように６月の定例議会開会中の県議会の中で、地元の白浜町選出の三栖拓也県会議員が質問をされました。その中で岸本知事が白浜町について答弁で触れていただいたところをちょっと引用させていただきたいと思います。知事の白浜町に対する思いがこもっておりますので、少し引用させていただきたいと思います。これは知事答弁です。三栖県会議員からの質問に対しての答弁であります。

「白浜は日本三古湯の一つである温泉地を有する風光明媚な場所であり、いにしえより多くの人々から愛されてきた豊かな自然に育まれた、食も豊富で大変魅力にあふれた地域であります。南北に長い本県において、県内唯一の空港を擁する白浜町は、観光客を紀南地域に招き入れるための重要な玄関口であると思っています。本年、南紀白浜空港は世界遺産紀伊山地の霊場と参詣道登録２０周年の節目に、熊野白浜リゾート空港という愛称を設定し、国内外に向けて空港の知名度の向上を図るとともに、「聖地リゾート！和歌山」との相乗効果を目指している国際チャーター便の誘致にも力を入れてきた結果、ベトナムや韓国からのインバウンド誘客にも着実に実績を重ねている。２０２２年度以降、年間利用者が２０万人を超えたところであります。熊野白浜リゾート空港を入り口として、本県を訪れた観光客を周辺の他の地域へと誘導し、本県全体の観光振興へと結べつけるべく、地域固有の価値をさらに磨き上げ、特に紀南地方における誘客の要として、本県の観光振興を牽引していっていただきたい」。

知事からは大変ありがたいこのお言葉、決意を、答弁で三栖県会議員の質問に対する言葉を述べていただきました。知事のこういう思いが２，５００メートル、実は手前みそになるんですけれど、今から２８年前に今の空港が開港したときに、「開港誌」という本ができまして、私がその中でちょっと述べさせていただいたことは、空港ができて大変うれしいというその次のところに、「航空需要の変化や機材の大型化等を勘案するとき、さらなる滑走路の延長が喫緊の課題でありますし、東京便の増便や新規路線の就航実現、将来的には国際便の実現などを思うとき、まだまだ道半ばと申せます」ということを私は当時この挨拶の中で述べさせていただきました。こういうことを私は個人的に思いましたときに今年の知事の南紀白浜空港の２，５００メートルの延長化というのは大変うれしかったんです。まさに我が意を得たりという。ですけれども、昨日の質問もそうですけれども、今の小森議員の質問にありますように、これはまだスタートをしたばかりでありまして、調査の結果がまだ出ておりません。調査の結果が出た中でどうするのかということはやっぱり次のステップの話だと思います。今おっしゃっていただいた人数の問題、我々の受皿問題、そういうことが私としては個人的には、早くやっぱりそういうことをやっていけるようになったらなという、今、県の調査の結果を待っているところでありますので、小森議員がおっしゃられたような、具体的な我々の取組方等を含めましては、少しお時間をいただき経過を見たいなというふうに思っています。

○議　　長

３番　　小森君

○３　　番

町長の答弁を受けて、滑走路の延長というのはどれほどの時間を費やすだろうか。そこにはまた住民の用地交渉をはじめ、環境問題、そして騒音問題、いろいろな難題といいますか、クリアしていかなければならない課題がたくさんあると思うんです。和歌山県がまだその調査段階ですから、どうするかというのを踏まえないと次のステップになかなか進むことができないと。今、町長から答弁をいただきましたけれど、しかし１つ取り組むことについての空港問題というのは少なくとも１０年単位で見ていかなければ、こんな大規模な事業というのは１年、２年ではすぐに進まないと思います。そういうことを考えまして、私は和歌山県の調査判断次第ですけれども、やはり前向きに捉える者の１人として、ぜひこれを何とか白浜町としても県と一緒に取り組んでいけるような環境づくりといいますか、私はこの南紀白浜空港というのが白浜町だけじゃなくて紀南地域一帯の今後の活性化の起爆剤につながることだと考えております。特に南紀白浜空港が開港して５６年たちましたと言いますけれども、その前から私はいろいろな方々から当時の様子を聞きましたら、６０年前、旧空港ができる前、やはり鴨居地区やあの周辺に住んでいた住民、私たちの先人たち、その方々がどんな思いで旧空港のために用地や土地をささげてきたか。あのときは、白浜町の将来の町の発展のために町益を考えて皆さん本当に大変な思いの中で、旧南紀白浜空港を造ってきたということを伺いました。様々な問題がある中ですけれども、私は単に空港の滑走路を延ばしたらいろいろな面でプラスになるだけじゃなくて、先人の町民の思いが込められて６０年前に旧空港が造られたと。そのことは当時は町益のためですけれども、昨日のお話を聞くと、今後は災害等々にも関連したような施設を持ってこられればいいと。今度は町益から国全体の益となるようなそういう活用ができる南紀白浜空港であってほしいというふうに私は強く考えております。

その中でも町長は、自衛隊の誘致、災害防災拠点空港として考えておられると申されておりましたけれども、なかなかこの問題も、もし自衛隊の誘致を進めれば、いろんな問題が出てくると思います。しかし私は、ただ白浜町の町益だけじゃなくて、本当に昨日町長がおっしゃられたように災害が起こればすぐこの南紀白浜空港から出動できるような。これは本当に国全体の国益にもつながるようなすばらしい働きであると存じております。そういうことを私たち町民として、南紀白浜空港のすばらしい活用方法をきちっと認識していかなければならないと願っておるんですけれども、町長はその辺どのようにお考えでしょうか。お願いいたします。

○議　　長

番外　　町長　大江君

○番　　外（町　　長）

ただいまのご質問ですけれども、本当に今の現空港を造るときには産みの苦しみがありました。その産みの苦しみを一番現場でやっていただいたのが、当時の白浜町です。白浜町が当時は片田町長の時代でありましたけれども、町長を先頭に職員の皆さんが、まさに寝ずの苦労をしていただいて、用地買収やいろんなことを県と一緒になって向き合ってやっていただきました。これだけの大きなプロジェクトをするということに関して、当該の自治体というのは、大変負荷が大きなものがかかってまいります。ですから、そういうことを考えなが

らどういうふうに進めていったらいいのかということになるというふうに思っております。

今、小森議員のほうから周辺のいろんな例えば用地を提供していただける皆さん、あるいはまたいろんな施設が来ることによって少し不自由を受ける皆さんに対しては丁寧にしていかなければいけないと思います。当時、現空港を造るときに、３点セットと言われたそういう迷惑施設の移転に関して、あれ以来３０年余り、保呂地区やあるいは内ノ川地区や庄川地区や、あるいは平間地区の皆さんに、白浜町として大変なご苦労をかけてきました。でも、その施設を受け入れていただいた区民の皆さんの、本当に白浜町を思うそういう気持ちの中で、私は今日の現空港があるというふうに、当時現場におった１人として本当に感謝をしております。

恐らく長さは５００メートルといいましても、やはり大きな規模の工事になっていきますし、また周辺も含めてご迷惑をかけなければいけないことが、私は多々あるというふうに思っております。そこは少しばかり経験をしてきた人間として、丁寧にしっかりとお願いをして、何とかしてでも進むということになっていったときには、そういうことを一つ一つ積み重ねながら、やっていきたいなというふうに思っております。

○議　　長

３番　　小森君

○３　　番

町長から今非常に心強い答弁をいただきました。本当に６０年前、そして今の現空港の２８年前、大変な中で、職員をはじめ、また町民一人一人がそれぞれ担ってこられたと、そういう中で今の空港があり、また白浜の町の発展といいましょうか、そういうものがあることを伺いました。そしてさらには、これが今度災害の拠点となるように、先ほども言いましたけれど、国益になるような働きにつながっていけるように。ただ地域発展やその地域振興の起爆剤だけじゃなくて、やはり国民の命を守る、それこそ先ほど町長が言っている人を守る白浜町にというのが、白浜町の町民を守るだけじゃなくて紀伊半島や国自体を守る、そういう施設につながっていただければと願っております。

続けて、活用方法として、先ほどから何度も言っておりますけれども、２，５００メートルに滑走路を延長するのには様々なものが広がってくると思うんです。どうしても私は２，５００メートルをもし実現ができるようになれば、先ほども言いましたように、航空大学校の誘致というのが必然ではないかと。これはよく２０３０年問題と呼ばれる問題で、あと数年先には日本中を飛んでいるパイロットが不足してしまうと、ある民間会社の調査で言えば、三、四百人のパイロットが年間退職、リタイアされていきますので減っていくと。今の日本の航空大学校がある中でそれだけを賄われるのかといえば恐らく難しい。今後ますます航空需要が広がっていくと存じております。そういうことに含めまして、やはり航空大学校の再誘致、そしてまた、２，５００メートルが延長化となれば、昨日もおっしゃられましたけれど、災害のときに関西国際空港や神戸空港に離発着が難しくなったときに、南紀白浜空港が代替空港として、そういう役割もあると。それがやはり町益を飛び越した国益につながるような、こういう働きになるんじゃないかと思うんですけれども、改めて町長に伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議　　長

番外　　町長　大江君

○番　　外（町　　長）

このご質問も昨日それぞれの議員の皆さんにお答えをさせていただきました。

今、自衛隊の誘致の話もおっしゃっていただきました。昨日廣畑議員からもありましたが、本来業務は防衛じゃないか。まさにそのとおりです。昨日もお答えしましたけれども、２０１１年以来、自衛隊が災害救助という形の中で出動されたことが、令和６年の１月１日の能登半島地震まで１８回、大きくあります。ですから、そういうことを鑑みても、自衛隊の皆さんはやはり本来業務とは別にこういういつ来るか分からない災害に対してしっかりと国民の命を守っていただいている。そういう中で今ある旧空港の立地条件というものが、そういうところに、しっかり生かせてつながっていけば、私はこの地域に自衛隊の皆さんが来て活動していただけるというのが一番いいんじゃないかと、そんな思いで申し上げてきておるわけであります。

小森議員は、そのことに関しては、ご賛同いただいているというふうに受け止めておるわけでありますけれども、いずれにしましても、やはりこの空港の活用に関しては、先ほど航空学校の話をしましたけれども、航空大学というのは私も今日の質問で初めてお聞きをしたわけでありまして、なかなか自分の狭い人脈の中でどういうふうにこの誘致をしたらいいのかということが今、妙案が浮かばないわけでありますけれども、また、小森議員が、そういうつながりのある方がおられましたら、私も積極的にしっかりとお願いをしていきたいなというふうに思っておりますので、航空大学の件に関しましては、またこれから勉強させていただきたいなと思います。

○議　　長

３番　　小森君

○３　　番

次の質問に移ります。次は、東京事務所の設置に向けてです。町長が所信表明でも非常に積極的に表明されていましたけれども、様々な政策を遂行していく上で、県や国の協力、理解をしっかり仰ぎ、連携を密にしていくためには、白浜町東京事務所の早期開設は必要であると申しておられました。そして、先日の所信表明でも、次回の９月定例会には関連予算を提案する予定であると言われましたけれども、もうそんなに時間はないはずであります。恐らく、町長をはじめ担当部局では、緻密に計算されていると思うんですけれども、何か具体的なそういうものって、今おっしゃられることができるんでしょうか。よろしくお願いいたします。

○議　　長

番外　　町長　大江君

○番　　外（町　　長）

この東京事務所の、そしてまたそれに連動する、今ご質問にはありませんでしたけれど、町長公室の話、これはあくまでも連携しているコミットしている話であります。その中で、東京事務所への思いは私の所信表明でも申させていただきましたけれども、小森議員も東京に陳情に行かれたと思います。あの霞が関で、名刺を配りながら、「白浜町です。何とかここの予算をお願いします」という、そのときに私がやっぱり今まで感じてきたのは、１，７１８ある全国の自治体市町村、そういう役場の関係の皆さんが連日連夜陳情に行くわけです。そんな１，７１８の自治体の職員の皆さんをキャリアの皆さんは、平等に受け止めてくれま

せん。名刺なんか渡したって、その後どうされているのか。そういう中で、何としてでも白浜町に向いてもらう努力はしなければいけない。私が所信表明で申し上げましたように、あの中央集権体制が変わらない今の中で、やっぱり我々地方は国にお願いに行かないかんのです。町から県、県から国という、やはりシステムが変わらない限り、地方分権が叫ばれて久しいですけれども、昔は３割自治と言いました。あとの７割は交付金をもらったり、あるいは借金をしたりという、それぞれの自治体が苦労して運営をやってきました。そういう中で、地方分権と言いながら少しは我々に税金を頂いたとしても、肝腎なところはやっぱり国が握っているんです。彼らがしっかり握っているんです。そのシステムが変わらない限り、我々がしっかり予算をもらう努力というのは、これは１，７１８のそれぞれの自治体の知恵の出し合いではないかなというふうに思います。

ですから、規模にしましても、どういう形でという大変ご懸念があると思います。私も議員の皆さんにはまだしっかりと申し上げておりません。当選させていただいて一月余りの中で、骨格予算からスタートした本年度のこの我々の白浜町であります。私の思いで進めさせていただくとすればやっぱり９月議会になってくると思います。今、役場の職員の皆さんが大変です。私がこういうことを申し上げた、こういう方向でやってほしい。ですから、今、大変な努力をしてくれております。でも、ある意味、職員の皆さんには私の思いは少しは理解をしていただいたかなと。我々の小さな町で、白浜町という名前にふさわしいふるさとをつくり上げていくためには、どうしても国の大きな力を借りなければならないという思いは、私は変わりません。だから、何としてもやっぱりこの東京事務所、最前線で行っていただく職員に人脈を受け継いでもらって、そして省庁の皆さんや、あるいはいろんな関係の皆さんに白浜町に目を向けていただく努力をしっかりやっていくというのが、私の責任かなって。小森議員、必ず結果は出ます。必ず出ます。何とかひとつ、東京事務所をやらせていただけないかな。私から答弁の中でお願いでありますけれども、ご理解をいただきたいというふうに思います。

○議　　長

３番　　小森君

○３　　番

今、町長から東京事務所の設置に向けて、町長公室も含めてですけれども、熱い答弁をいただきました。私もまだそういうところにはちょっと認識不足かも分かりませんけれども、現実に考えましたら、県内でも和歌山市とか紀の川市、ある程度の行政規模がある自治体は東京事務所を設置されていると思うんです。やはり人口２万人のこの小さな自治体が、本当にそういうことが可能だろうかと。町長は目先のことよりも、将来の白浜町の発展を考えて必要だというのはもう十分分かるんですけれども、どうしても私なりには費用対効果を考えてしまうんです。例えば、町から県に出向して、県の東京事務所で１年、２年、そういう働きを見るとかそういう状況を見た上で、白浜町独自で事務所を開設しなければという思いがある程度見えてくるときでもいいんじゃないかとか、私なりに思うんですけれども、そこら辺町長のほうはどうでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議　　長

番外　　町長　大江君

○番　　外（町　　長）

小森議員、今いみじくも、出向の話をされました。これは例えば東京事務所をつくらずに、白浜町の職員が和歌山県の東京事務所に行ったとします。彼はどんな肩書で省庁を回るんですか。和歌山県東京事務所白浜町の職員の人の名前、これを霞が関の皆さんは、和歌山県の陳情だなと思いますよ。その中を出向で行った職員が名刺を渡して、実は私は白浜町職員なんですと、これは白浜町の陳情なんですということは、これは組織上言えません。ですから、やっぱり出向で行くという考えは私にはもう全くありません。白浜町の役場の東京事務所の誰々ですということをしっかり語ってもらって、向こうもどこの町の陳情かということを受けてもらって、そうでなければごまかしになりますよ。

ですから、今、費用対効果を言われました。実は懐かしい言葉だなと思いましたのは、かつての旧民主党が費用対効果を叫んで、無駄な道路は要らない、公共事業は減らせ、こういう大衆迎合的なことを言って政権につきました。当時私は民主党におる中で反対をさせていただいた１人でありました。しかし、費用対効果を言いましたら皆さん、和歌山県で１を超す道路なんて１本もありませんよ。１本もない。全部１を切る道路です。それでも我々は、行政、政治に携わる者は、そこに１人住んでおられても道をしっかり造っていくというのが、我々の責任じゃないでしょうか。当時私はそういうことを叫びながら、民主党が唱えるこういう大衆迎合的なことに反対をしてきました。ですから、やはり費用対効果ということを言われれば、お互いこの小さな町でこの限られた予算の中では、もうがんじがらめの中で私は発展性のあることはできないというふうに思っています。ですから、損して得取れという商売の言葉がありますけれども、やっぱりやるべき投資はしっかりやっていく、するべき予算はしっかりつけていく中で、リターンをしっかり我々が受け取れば、これはもう十分に投資に値する結果になっていくというふうに思っておりますので、どうかそこはひとつ小森議員、ご理解をいただきたいなというふうに思います。

○議　　長

３番　　小森君

○３　　番

町長のそういう先見の明といいますか、本当に目先だけじゃなくて白浜町の今後の活動や展開、進展、そういうことについて伺いました。本当にそうかもしれないと思うんですけれども、私なりに６年近く議員をさせていただく中で、町の財政とか現状というのも全く無視はできないだろうと。もちろんマンパワーの不足もあるんですけれども、財政というのは、この２万人に合った財政規模ってありますから、その中でも本当に近年、例えばその指標の１つに経常収支比率とかあります。これは低いほど自由に使えるお金が増えてくるというわけですけれども、直近のデータを見ましたら、令和４年度では９２％でありました。合併以降１８年、１９年を迎える中で一番低い数値のときでも、平成２２年の８６．９％です。全国平均値としましては７０％、８０％の推移が望ましいと。それ以外の残り２０数％は自由に使える町の財源であると言われています近年この１，７００の多くの自治体の中で、７０％台、８０％台という自治体はそうはないと思うんですけれども、しかし白浜町は、かなり高い経常収支比率の中で、なかなか自由に使えるお金というのが限られてくると。その中でどのように新しい施策に取り組んでいくのか。これはやっぱり町長の手腕になってくると思うんですけれども、そこら辺はどのようにお考えでありましょうか、答弁をお願いいたします。

○議　　長

番外　　町長　大江君

○番　　外（町　　長）

まさにその心配の向きは私も同じ思いであります。ただ私は昔からプライマリーバランスを限りなくゼロに近づけていく、そして黒字に持っていく、これは方向として正しいと思うんですけれども、我々の行政の仕事というのは、半分は現実対応をどうしていくか。しかし、残りの半分は将来投資です。道路を造るのも３０年、５０年を見据えて、そのときに莫大な金がかかります。だけれど、やはりその資産というのは、我々の子供や孫の代に残っていくわけですから、そのことの投資の資金、予算というのは必ず発生してくると思うんです。ですから、財政の担当職員の方に聞いたら大体全国で、今、小森議員がおっしゃいましたが、大体我々の町のような９０％前後の経常収支比率だということを聞いております。ですから、そういう中でざるみたいにどんどん無駄なお金を使うというわけではないんです。ないんですけれども、やはり要るときにはしっかり予算を使って、そして先ほど言いましたリターンをどういうふうに求めるかという、ここの考え方も大事ではないのかなと。あまり予算の枠に捉えられて、硬直的な政策になったり、がんじがらめのこの政策になったりというのは、むしろ発展を止めるというふうになるんじゃないかと、そんなふうに思っております。赤字の再建団体なんていうことになったらこれはもう大変なことになるわけですけれども、そこはしっかりさじ加減をしながら新しい投資に回すことができたらなと、そんなことを自分なりに考えております。ここはしっかりうちの財政当局とも相談をしながら、やっていきたいと思いますので、ひとつこれもご理解いただきたいなと思います。

○議　　長

３番　　小森君

○３　　番

町長から未来に向けてどのように投資していくか、行革とか緊縮財政だけじゃなくて未来投資というのが必要であると、そういうお言葉をいただきました。

最後の質問ですけれども、先ほどから何度も言っていますけれども、消滅可能性の自治体に該当する町の将来を見据えて、本当にこれからの３０年先、５０年先、さらには１００年先と、そういう未来を私たちはきちっと形づくって担っていかなければならないと強く願うわけです。先ほど言った２０５０年というのはあと二十数年ですから、あっという間にやってくると思うんです。今から未来に向けて、私たちは責任を持って、どのようにまちづくり、地域づくりをしていけるか、進めていけるか。

今の状態でしたら私たちの白浜町だけではないと思うんですけれども、近い将来消滅するという言葉はちょっとあれですけれども、今までできていたことが機能しなくなってしまう、そのような地域がどんどん増えてくると思うんです。やはり白浜町で、何十年も住んでくださっている先輩たちがまだお元気でおられます。何とかそのような方々が安心し、また、未来の子供たちや若い方々も安心できるような、まちづくりや地域づくりを何とか残していかなければならないと。そういう展望を私は考えれば、将来を担う若い人たち、もっと具体的に言えば、子供たちに対する投資、未来投資が必要ではないだろうか。

昨日からも言われている給食費の無償化、また、それに関係する支援策、町長は進めたいとおっしゃったようにもちろんそうですけれども、さらにもっともっとほかの自治体にはないような、こういう未来を担ってくださるような方々に向けてのそういう教育投資であり、

また、そういう支援を広げていくような投資というのは必要じゃないか。そしてそういうことを充実させることで、この町に生まれてよかった、この町に育ってよかった、この町に住んでよかったと、そう思えることが、どんどん増えてくるんじゃないでしょうか。

例えば地域が消滅していくかもしれない時代の中にあっても、その地域に生まれ育った誇りを持ってそれぞれに歩んでいく。本当になかなか自分の町を自分の地域に誇りを持つって難しいかもしれませんけれど、そういう白浜町であってほしいなと私は願うわけでありますけれども、町長はそこら辺どのようにお考えでありましょうか、答弁のほうをよろしくお願いいたします。

○議　　長

番外　　町長　大江君

○番　　外（町　　長）

小森議員が今申されましたように、やはり私としても自分が町長にならせていただいたその年に、白浜町が消滅可能性自治体だなんて、こんなことはもう本当にすごくショックでありました。しかし、それはポジティブに捉えれば、おまえしっかりやれよと。町長、おまえはしっかりやれよというお言葉ではないかなというふうに思います。ですから、消滅する、なくなっていく、大変ネガティブな言葉をいろいろ聞かされますけれども、私は人口減というのは一朝一夕にはなかなかいかないとは思います。今言われましたように子育ても含めてどういう努力をしていくのか。

だけれど、私は今いろいろと人口減、町民がどんどん少なくなっていくということを言われるたびに言っておるのは、それも確かに悲観材料の１つだけれども、それ以上に我々の町にはいろんなポテンシャルがある。観光も含めて、あるいはこの山紫水明な自然豊かなふるさとはいろんな可能性を持っておるわけですから、それをどのように生かすのか、我々がそれを利用してどのように次の時代につなげていくのかという、これが私は、与えられた責任ではないかなと。ここの部分は恐らく小森議員をはじめ議員の皆さんとは共有させていただいていると思います。

だからしっかりと現状を見る中で、その中でずっと父祖伝来我々に与えていただいた我々の町の財産、資産、こういうものをしっかり生かしていけば、私は次のステップがしっかり踏めていくというふうに思っております。先ほど言いましたように、都市計画の見直しの中で用途地域を変更していく。我々のパイを広くしていく。投資チャンスを増やしていく。やはりこれだけの我々の町ですから、必ず来てくれると私は確信をしております。そういうことを一つずつ、今できることを一つ一つ我々が、ちょっと難しいなということがあったとしても、そこはお互いが将来の我々のふるさとづくりだという、そういう思いでやっていけば、必ず私はやっていけると思いますので、どうかひとつ時間をいただきたいと思います。

実は、我々政治の世界では、当選をして３か月間はハネムーン期間だということをよく言われます。３か月は何をやっても許されるわけじゃないけれども、やはりハネムーン期間３か月というのは大らかに見てやっていこうじゃないかというそういう政治の世界の言葉でありますけれども、まだハネムーン期間は一月ちょっとでありますから、少しお時間をいただければなと、そういうふうに思いますので、小森議員の答弁になったかどうか分かりませんが、私の思いの一端を述べさせていただきまして、答弁に代えさせていただきたいと思います。

○議　　長

３番　　小森君

○３　　番

町長からそのような未来に向けて、悲観するんじゃなくて希望を持って取り組んでいこうと、そういう力強いお言葉をいただきました。この町には本当に直面する行政課題や、また様々な住民課題が山積していると思うんですけれども、ぜひその一つ一つを、４年間という限られた時間でありますけれども、町長が一つ一つを実現してくださって、そしてその上で、愛するふるさと白浜町を元気に明るく世界に誇り得る町にしていけるように、私ども議員ではありますけれども、そのような町長の取組をきちっと見定めて、私どもは住民を代表する立場でありますから、そのときに町長が一つ一つの実現に向けて、私たちも、いいところはぜひ応援してまいりますし、そうでないところはもう少しそれは検討されてみてはどうでしょうか。本当にそういうところでこの白浜の町をより一層すばらしい町にしていければと願っております。私の質問は以上で終わらせていただきます。先ほど言っていただいたのですが、町長、ありましたら。

○議　　長

番外　　町長　大江君

○番　　外（町　　長）

ありがとうございました。

最後は叱咤激励のお言葉をいただいたというふうにしっかり受け止めまして、これから小森議員をはじめ、議長、そして議員の皆さんとは、しっかり対話をするということが私は大事だと思います。そういう時間を議員の皆さんに取っていただいて、お互いが理解をし合えるような時間をいただければありがたいかなと思います。何度も言いますけれども、恐らく一番混乱しているのは副町長をはじめ職員の皆さんだなというふうに思っております。職員の皆さんにもしっかりこれから丁寧に私の考えや思いを伝えながらやっていきたいと思いますので、どうかひとつ、今後ともご指導をよろしくお願い申し上げたいと思います。

○議　　長

３番　　小森君

○３　　番

以上で終わります。

○議　　長

町長の政治姿勢と今後の町の展望についての質問は終わりました。

以上をもって、小森君の一般質問は終わります。

一般質問はこれをもって、終結いたします。

本日は、これをもって散会し、次回は６月２５日火曜日午前１０時に開会したいと思います。

これにご異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○議　　長

異議なしと認めます。

したがって、本日はこれをもって散会し、次回は６月２５日火曜日午前１０時に開会した

いと思います。

議長　溝口　耕太郎は、　１１　時　２５　分　散会を宣した。

地方自治法第１２３条第２項の規定により下記に署名する。

令和　６　年　６　月　２１　日

白浜町議会議長

白浜町議会議員

白浜町議会議員